

7月下旬 ～ 9月下旬 開花期	ウドンコ病、黒斑病、灰色かび病	殺菌剤 ポリオキシシンAL乳剤	高温乾燥期に10日前後の間隔で散布する。 特にハダニの発生に注意
	アブラムシ類、アザミウマ類、ヨトウムシ類	殺虫剤 オルトラン水和剤	
	ハダニ類	殺虫剤 アディオン乳剤	
10月下旬 ～掘上	貯蔵時の球根洗浄	球根洗浄後、風で乾燥 ウイルス被害株は廃棄する。	球根の霜害・凍結に注意し貯蔵

- 殺菌剤、殺虫剤の混合された簡易スプレー剤も市販されている。
- 病気や害虫により生育が極端に悪い株は、抜き取って植えなおす。
- 病株で症状が軽く、秋まで花が咲いているものでも、テープなどで印をつけておいて、球根を掘り上げたら廃棄するようにする。
- 切り花や球根分球の際にハサミを使用する場合は、ウイルスによる病気を防ぐため 殺菌剤で消毒するか道具の水洗いを徹底します。

6 球根の掘り上げ・分球

冬、霜が降りて土地が凍ることがなければ、畑で冬越しをし、春のお彼岸頃分球をして、植え付けることが望ましい。球根を掘り上げたら、水洗いをして分球する。

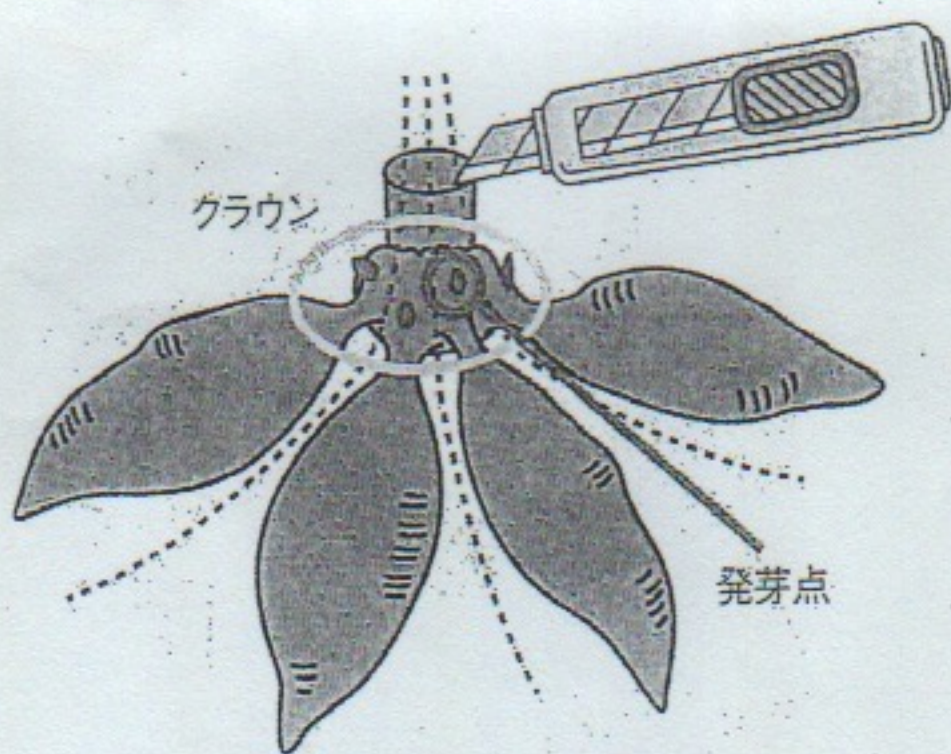
分球したら、切り口を一週間ほど乾かしてから植え付ける。

この時、球根に直接マジックで名前を書く。

10月下旬から11月上旬に入り霜が降りる頃には、球根が養分を貯え大きくなっているので、茎を根元から切り、品種を確認しながら、傷めないように球根を掘り上げ、土を洗い落とす。

2、3日陰干しをして、早めに分球をして貯蔵する。(寒さにあてるといたむ事がある)株のまま貯蔵する場合(大きな株は2～3に株割りをする。)は、春の植え付け前に分球する。

ダリアは、球根「芋」の部分だけでは発芽しない。「クラウン」と呼ばれる球根の付け根の部分に発芽点があるので、クラウン部を切り分けるように分球する。



発芽する球根
発芽点がある

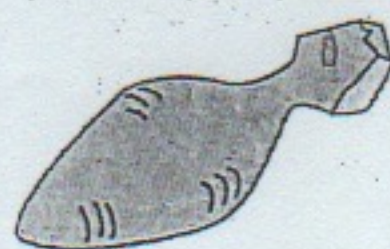


図 11

発芽しない球根

クラウンがない

発芽点がない



7 球根の貯蔵

分球した球根は、5度以下にならないよう保管する。